

配置概要



設計概要

建設予定地 大崎市古川千手寺町一丁目47番ほか
 ※建設後の市役所の住所は、現在と同じく「古川七日町1番1号」となります。

構造 鉄骨造(耐震構造)

行政機能エリア 地上5階(最高約26 m)

市民交流エリア 地上3階

延床面積 約12,128㎡(本庁舎棟 約11,781㎡+車庫・駐車場棟 約347㎡)

概算工事費 約65億円(本庁舎・東庁舎)

※現 本庁舎の解体や南側駐車場の整備、備品購入費などを含めた総事業費の規模は、約80億円です。

66 時代の変化(潮流)に対応する 地方自治の拠点 99

新しい市役所本庁舎の 基本設計がまとまりました



「市民の誇り」「安全と安心」
 「にぎわいと情報発信」「豊かな資源」をつなぐ
 循環型庁舎の実現へ

「みんなが利用しやすい、親しみのある庁舎へ」
 これまで、市民の皆さんからは、「市民活動の広がる・つながる場所がもっとほしい!」「気軽に立ち寄れるような施設がいい」など、市のにぎわい創出、交流促進を期待する意見を多くいただけてきました。

新庁舎は、行政サービスを提供する「行政機能エリア」と、市民への開放性を高めた「市民交流エリア」の2つで構成し、親しみのある庁舎になるよう、市民の皆さんの意見を具現化していきます。

また、できるだけ低層部の床面積を確保することで、利便性の向上を目指します。(施設平面図は10ページ)

考慮し、より使いやすい庁舎を計画しています。

現在の本庁舎は、新庁舎の完成後に取り壊しを行い、駐車場として整備します。

また、南側敷地には、古川駅や商店街からの歩行者アプローチに配慮し、新庁舎への自然な誘導を促す「歩行者プラムナード」を整備する予定です。

新庁舎の建設場所
 新庁舎は、現在の本庁舎第二駐車場(現本庁舎の北側敷地)に建設し、現在の庁舎に比べ東側に寄せることで、今後も活用する東庁舎との連携を

新しい本庁舎の建設は、令和4年度中の供用開始を目指し、「大崎市役所本庁舎建設整備基本計画」の考え方や、これまで市民の皆さんからいただいた意見・提案を踏まえながら、計画を進めています。

新庁舎の建物の構造や配置、各階のフロア構成、備えるべき機能・設備など、基本的な内容をまとめた「基本設計」を策定しましたので、概要をお知らせします。

88 基本方針 99

- ▶ みんなが利用しやすく、親しみのある庁舎
- ▶ 災害に強く、情報・交流拠点としての庁舎
- ▶ 環境へ配慮し、管理コストを考慮した庁舎